

架空線事故に対する好事例

職場のあんぜんサイト
(厚労省)

オペレーター目線での注意喚起



オペレーターの目に付きやすい位置にマグネットを貼ることで、架空線と地下埋設物の両方に注意喚起した。

オペレーター目線での注意喚起



「のぼり旗」に加え、カラーコーンに黄旗を差したものを連続配置することで、オペレーター目線での上空架空線に対する注意喚起を行った。

架空線事故に対する好事例

大げさな架空線明示

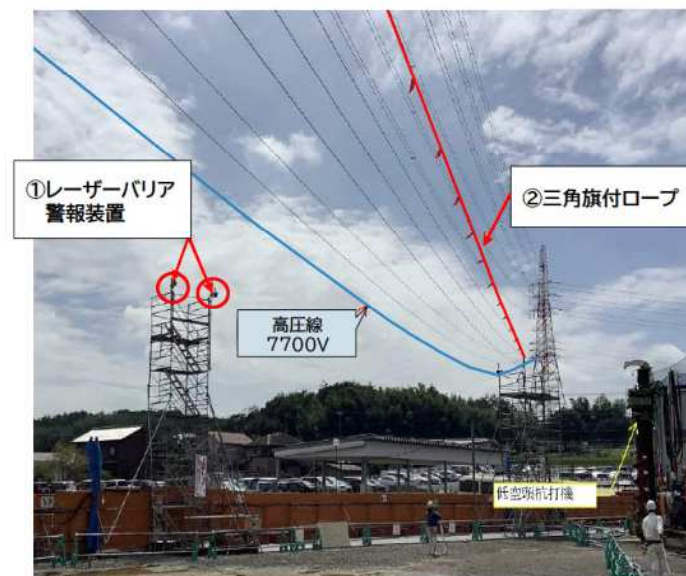
近畿地整



架空線の明示のため、手前に空き缶（一斗缶）を吊り、注意喚起を促している。
万一、ダンプトラックがダンプアップしたまま通過しようとした場合、衝突音で気づかせる。

職場のあんぜんサイト（厚労省）

高圧線近接作業 レーザーバリア・警報装置による見える化



※ 警報装置は、工事事務所内にも設置。離れた場所からの「見える・聞こえる化」



- ①レーザーバリア（水平・垂直）・警報装置を設置。
- ②三角旗付ロープを設置。

令和7年度工事等事故防止重点対策項目と対策



③高所作業箇所からの墜落事故

※高所作業箇所とは法面・足場等安衛法に規定する高さ2m以上の作業箇所をいう。
※滑落含む。

高所作業箇所からの墜落事故防止に必要な対策

①適切な作業手順の検討

現場条件を十分に考慮し、現場に見合った作業手順を作成、作業担当者等に周知徹底するとともに、手順に応じた墜落防止対策を講じる。現場条件の変化等が生じた場合には、都度、作業手順を見直す。

滑落の危険が認められる箇所については、転落防止対策を徹底すること。

②墜落制止用器具等の適切な使用の徹底

作業箇所が高所等により、墜落の恐れがある場所では、作業担当者に対し、墜落制止用器具等の適切な使用について、指導を徹底する。あわせて、適切な使用ができるよう、墜落防止設備を設置する。

③安全通路の設置

作業箇所が高所等により、墜落の恐れがある場所では、作業担当者が安全に使用することのできる通路を設置するとともに、安全通路であることを表示する。

墜落事故に対する好事例

近畿地整

安全帯の架け替え訓練の実施



高所作業を実施する作業員全員が安全帯を架け替えて歩行する訓練を行った。

墜落事故に対する好事例

フルハーネス着用有無の確認



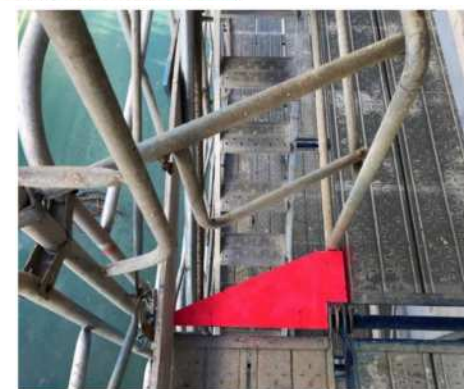
作業員がフルハーネスを着用しているか確認できるように足場の垂直ネットを高さ6.75m※のラインで色を変えた。

※墜落制止用器具はフルハーネス型が原則であるが、フルハーネス型の着用者が墜落時に地面に到達するおそれのある場合（高さが6.75m以下）は「胴ベルト型(一本つり)」を使用可能である。

開口部の養生



職場のあんぜんサイト
(厚労省)



鋼製枠組足場の昇降階段に生じる開口部を、コンパネにより養生した。

また、当該箇所に見える化として、蛍光色のラッカースプレーにより着色した。

令和7年度工事等事故防止重点対策項目と対策



④重機による施設及び作業員等との接触事故

※施設とは公共施設及び第三者施設をいう。ただし、架空線は除く。

※重機の転倒を含む。

重機による施設及び作業員等との接触事故防止に必要となる対策

①適切な作業手順の検討

現場条件を十分に考慮し、現場に見合った作業手順を作成、作業担当者等に周知徹底するとともに、手順に応じた使用機械を選定する。現場条件の変化等が生じた場合には、都度、作業手順を見直す。

②立入禁止範囲の明示

重機作業を行う際には立入禁止範囲を定め、作業担当者等、工事関係者全員に周知する。あわせて、必要に応じ、誘導員を配置する。

③移動式クレーンの転倒防止

移動式クレーン作業計画書を定めるとともに、アウトリガーの張り出し等、適正な使用を徹底する。あわせて、吊り荷重量や定格荷重の超過について、確認体制を整え、転倒防止を徹底する。

重機との接触事故に対する好事例

旋回範囲の明示



サイズ:長さ1030mm×マグネットベース径80mmφ/ポール径68mmφ 材質:発砲ポリエチレン

作業員が間違って旋回範囲内に立ち入った際に、重機本体に接触する前に安全ポールに接触する事で気付かせる事を目的として、バックホウの周囲に重機安全ポールを取付けた。

立入禁止の明示

職場のあんぜんサイト
(厚労省)

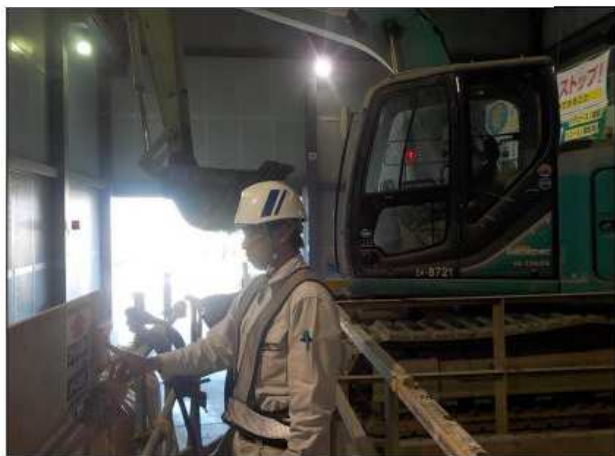


安全通路のすぐ近くで重機やクレーンが稼働しているため、機械の後方に伸縮式の立ち入り禁止バーを設置し、接触、挟まれ災害を防止した。

重機との接触事故に対する好事例

近畿地整

オペレーターに立入を伝達



職場のあん
ぜんサイト
(厚労省)



バックホウの作業エリアへ立入る際に、バックホウ機内に設置している回転灯を点灯させ、運転手に知らせて接触を防止した。

作業員との接触（挟まれ等）防止

1本目仮置き時、やらずで固定



不安定な鋼部材を仮置きする際、玉掛け取り外し前に順次転倒防止処置を実施。

鋼材転倒による手足の挟まれ防止対策、地震時の転倒防止対策に有効に機能した。

令和7年度工事等事故防止重点対策項目と対策



⑤資材・仮設材及び工具の飛来落下による事故

- ※壁等の倒壊による上方からの落下事故含む。
- ※強風による資材等の飛散事故含む。
- ※UAVの落下事故含む。

資材・仮設材及び工具の飛来落下による事故防止に必要な対策

①上下作業の回避

上下作業は、飛来落下の危険を生ずるおそれがあるため、極力避ける。やむを得ず上下作業を実施する場合は、事前打合せを十分に行い、留意点等を作業担当者に確実に伝達するとともに、防護措置を講じること。

②立入禁止範囲の明示

作業内容に応じ、立入禁止範囲を定め、作業担当者等、工事関係者全員に周知する。あわせて、必要に応じ、誘導員を配置する。

③資材等の保管、仮置き、集積

資材等を保管、仮置き、集積する場合は、緊結、歯止め等の措置を講じるとともに、作業床端や開口部、法肩等の落下しやすい箇所では行わない。

④資材等の吊り作業（玉掛作業）

適切な機械の選定、有資格者の配置を徹底する。

⑤第三者に対する防護措置

現道又は民家等に近接している場所で工事を行う場合は、飛来落下や飛散防止措置を講じること。

資材・仮設材及び工具の飛来落下事故に対する好事例

近畿地整

ネットの取付



高所作業車の作業床に落下防止ネットの取付けた。

(4)近畿地方整備局の事故防止重点対策項目

資材・仮設材及び工具の飛来落下事故に対する好事例

職場のあんぜんサイト
(厚労省)

LED照明装置を用いた吊荷直下の見える化



LED照明装置をクレーンのフック上部
に取付け、フック下を照射することによ
り、吊荷下の見える化ができ、立入禁止
区域が明確になった。

交差道路位置の明示



橋面から交差道路への資材の落下の防止
を目的に、橋面の仮設手すりに道路の位置
を示し注意喚起を施した。



(5)近畿管内の事故事例

①地下埋設管に対する事故

【近畿の事故 地下埋設管・公衆災害】

事故種類	管理施設損害	事故発生日	令和6年4月	天候	曇り
事故概要	● 事務所新築工事の際、配管に伴う掘削をしていた際、既設給水管をバックホウで切断した。 ● 試掘にて給水管位置を把握し、埋設管の位置および埋設管付近では手堀りに変更するようバックホウのオペレーターに指示していたが、深さ何cmで手堀りに切り替えるかなど、手堀りに切り替える範囲の指示が明確でなかった。 【被害程度】 事務所所有の既設給水管 切断（約3時間後復旧）				

事故状況（再現）



被害状況



給水管切断状況



給水管破断状況詳細

主な事故発生要因

- 手堀りに切り替える範囲の指示が明確でなかった。

再発防止対策（案）

- 手堀りの範囲など現場状況に則した指示を行う。
- 予定外の事象が発生した際に一時作業を中断するよう、作業計画を見直す。